

## 予 算 要 求 資 料

令和7年度3月補正予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

**事業名 【新】生産方式イノベーションモデル実証事業費補助金  
(R8分)**

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農政課 スマート農業推進係 電話番号：058-272-1111(内4023)

E-mail : c11411@pref.gifu.lg.jp

**1 事 業 費 補正要求額 15,000 千円 (現計予算額： 0 千円)**

**<財源内訳>**

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 収 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
現 計 予算額	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補 正 要求額	15,000	7,500	0	0	0	0	0	0	7,500
決定額	15,000	7,500	0	0	0	0	0	0	7,500

**2 要 求 内 容**

**(1) 要求の趣旨（現状と課題）**

農業の担い手の大幅な減少が見込まれる中、県民の食料を安定的に確保していくためには、スマート農業技術等の革新的な技術の導入と、その技術による省力化・省人化効果を最大限に引き出す生産方式の導入が不可欠である。

**(2) 事業内容**

農業の省力化・省人化を飛躍的に向上させるためには、次の取組等を体系的に組み合わせた実証モデルを公募し、優秀なモデルについて、その実証経費を補助する。

- ①ドローン等を活用した直播栽培等新たな生産方式の導入
- ②ドローンやロボット農機などの農道を横断した連続作業等の規制打破の取組
- ③効率的な作業を実現するための担い手への農地集約 など

公募件数：5件（岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨の5地区を想定）

補助率：定額（上限額：300万円／1件）

### (3) 県負担・補助率の考え方

県1／2、国1／2（地域未来交付金（地域未来推進型）の活用を想定）

### (4) 類似事業の有無

スマート農業実証プロジェクト（国：令和元年～令和6年）定額補助

## 3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	15,000	5地区（1地区当たり上限300万円）
合計	15,000	

### 決定額の考え方

## 4 参考事項

### (1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略（2023～2027年度）  
II - 3 - (3) - ② 「未来を支える農業・農村づくり」の推進
- ぎふ農業活性化基本計画（2026～2030年度）（仮称・令和8年3月策定予定）  
II 潜在力をフル活用した生産強化  
1 農畜水産物の供給力強化

### (2) 国・他県の状況

省力化・省人化を実現するモデル事業は16都県で実施されているが、既存の規制等の課題を打破する革新的なモデル実証の該当はない。

### (3) 後年度の財政負担

当該事業で実証したモデルの横展開を促進する事業を実施

### (4) 事業主体及びその妥当性

各種規制の課題を打破し、地域ぐるみで取り組む必要がある事業であり、県、市町村、農業者、農業者団体等で構成する地域協議会が事業主体となる必要がある。

## 県単独補助金事業評価調書

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

### (事業内容)

補助事業名	生産方式イノベーションモデル実証事業費補助金
補助事業者（団体）	<p>地域協議会            (理由) 各種規制の課題を打破し、地域ぐるみで取り組む必要がある事業であることから、事業者体は県、市町村、農業者、農業者団体等で構成する地域協議会である必要がある。</p>
補助事業の概要	<p>(目的) 新たな生産方式の導入とスマート農業技術を組合せ、様々な課題や規制等で実現できていない次世代の省力化・省人化の地域モデルを実証する。</p> <p>(内容) 新たな生産方式の導入とスマート農業技術を組合せた次世代の地域農業モデルの実証に要する経費を補助</p>
補助率・補助単価等	<p>定額・定率・その他（例：人件費相当額）            (内容) 定額（上限額：300万円/1事業主体）            (理由) 岐阜県の今後のモデルとなる次世代の地域農業の取組の実証を行うものであり、過年度に実施されたスマート農業実証プロジェクト（国）と同等（定額）の支援が必要。</p>
補助効果	実証した成果を次世代の省力化・省人化の地域モデルとして横展開することで、農業人口の大幅な減少に対応し、安定した食料生産が確保できる。
終期の設定	<p>終期 令和10年度            (理由) 令和8年度は水稻をテーマとして実施。令和9年～10年は野菜、果樹等をテーマとして実施する。</p>

### (事業目標)

- ・終期までに何をどのような状態にしたいのか  
 農家人口の減少下における各品目の経営モデルとして、実証地区を中心に県下全体に横展開できるようとする。

### (目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R6)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R10)	達成率
①生産方式革新実施計画認定数		0			5	15

補助金交付実績 (単位：千円)	R4年度	R5年度	R6年度

### (これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 5 年 度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %
令和 6 年 度	・取組内容と成果を記載してください。
	指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %

### (事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価)	
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり（単年度目標100%達成かつ他に特筆できる要素あり） 2：期待どおりの成果あり（単年度目標100%達成） 1：期待どおりの成果が得られていない（単年度目標50～100%） 0：ほとんど成果が得られていない（単年度目標50%未満）	
(評価)	
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価)	

### (今後の課題)

- ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

### (次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 令和8年度の実証結果を横展開するとともに、野菜や果樹など他の品目についても実施する。
--